

# 梅か桃か桜か

梅の花 咲きて散りなば

桜花 継ぎて咲くべく なりにてあらずや

『万葉集 巻五 八一九』

訳：梅の花が咲いて散ったと思つたら、続いてすぐには桜が咲きそうになつてゐるのではないですか。春はすぐそこに來ています。

(作者) 葉師(職業・医師)

張福子

この歌は、天平二年一月十三日に大伴旅人の邸宅で催された宴席で詠まれた歌です。当時の暦は現代の暦と異なつてゐるため、一月十三日は現代の二月下旬頃の季節感とお考えいただければと思ひます。いづれにしても春を待つ気持ちが表現されてゐる歌と思われまふ。

ここには、梅も桜も詠まれています。万葉集には様々な花に関する歌がありますが、梅を詠んだものが百首以上、桜を詠んだものが約四〇首あるようです。万葉の時代では梅の方がメジャーだったようです。梅は弥生時代以降、また、遣隋使がアンズとともに日本に葉として持ち込んだ植物という説もあります。ちなみに桃も縄文時代末期〜弥生時代の渡來

植物と想定されており、近年では弥生時代の遺跡から種が多く見つかつており、古事記にあるように桃の実には魔よけの力があると考えられていたようです。菊もボタンも朝顔も蓮、水仙もすべて奈良〜平安時代に遣唐使などにより、葉物・観賞用として日本に持ち込まれたものといわれています。

これらの花とは別に桜は国産だったようです。しかし、万葉集でもあまり詠まれてゐないのは、山桜で人里離れた山の景色として鑑賞されていたものを万葉の頃の人たちが、里の桜として庭園などに移植したことにより、人里に降りてきたとも言われてゐます。今でも地方により、「田打・種時き、田植え桜」との名称で呼ばれてゐる桜があります。これは古代山桜には「田の神様」が宿ると考えられており、山に在る田の神様が田植えの時期に里山に降りてきて、農事の時期を知らせると考えられていたこととつながります。

「サクラ」の名前の云われは複数ありますが、その一つに『古事記』に登場する「大山津見神」の娘で「木花之佐久耶毘売」が霞に乗って富士山の上空から桜の種を撒いたとの伝説的な云われもあります。奈良の春を代表する行事に有名な東大寺二月堂の「お水取り」があります。この行事と並んで春を告

下野市教育委員会 生涯学習文化課

げる行事に奈良薬師寺の「花会式」があります。この行事も古代から連綿と続く儀式と言われています。この花会式は、薬師寺金堂の薬師如来に「悔過」をしてみんなの幸せを願う行事で、現在も毎年三月下旬に行われ、国家繁栄、万民豊楽、五穀豊穰などが祈願され、仏前は梅・桃・桜・山吹・椿・牡丹・藤・百合・カキツバタ・菊などの造花で飾られており、ここから「花会式」と呼ばれています。

下野薬師寺からもこの「悔過」と書かれた墨書土器が多数出土しており、これらは土器の年代から今から凡そ千年くらい前のものと考えられます。下野薬師寺でも千年前に薬師如来にお詫びの行事が行われ、国家繁栄、万民豊楽、五穀豊穰などが祈願されたと考えられます。この時、仏前に飾られたのは梅の花でしょうか？それとも桜の花なのでしょうか？

